

# イトヌヒゲ

## ホシクサ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

*Eriocaulon decemflorum* Maxim. var. *nipponicum* (Maxim.) Nakai

国カテゴリー

該当なし

### 選定理由

湿地の開発や除草剤の使用により近年減少が目立っている。これまでに知られている産地は10数ヶ所あるが、今回は能登地方の4ヶ所の確認報告があった。(現況:R-)

### 形態

シロイヌヒゲに似るが、葉は幅1~3mm、葉の先に近い部分は厚みがあり横脈はあまり目立たない。頭花は幅5~7mm、総苞片は薄い膜質で頭花より少し長く、先はやや鈍頭。萼や花弁の先にはシロイヌヒゲと同様に細長い粉状の短白毛を密布する。他のホシクサ類の花のほとんどは基本的に3数性であるのに対し、本種は2数性で柱頭は2岐、子房は2室。

### 国内分布

北海道~九州。

### 県内分布

外浦区(輪島市)、内浦区(能都町、穴水町)、中能登区(七尾市、羽咋市)、南加賀区(小松市、加賀市)。

### 生態など

一年草。花期は8~10月。

### 生育環境

山間の日当たりのよい湿地や水辺、田の畔など。

### 危険要因

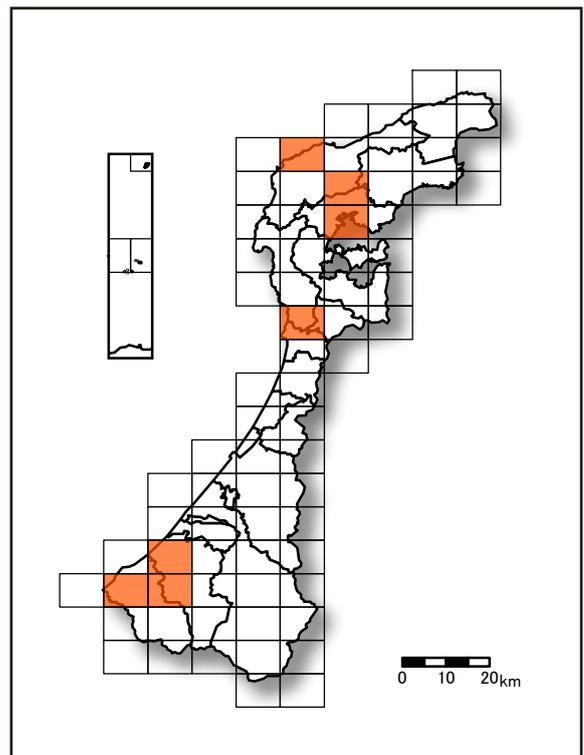
池沼開発、管理放棄、自然遷移。

### 特記事項

高さ20~30cm、頭花は大型で萼片および花弁に白毛が密生するものを狭義のイトヌヒゲ(var. *nipponicum*)とし、高さ5~15cm、頭花は小型で萼片および花弁に白毛の少ないものを基本変種コイヌヒゲ(var. *decemflorum*)として分けることがあるが、本県のものほとんど狭義のイトヌヒゲ(var. *nipponicum*)に含まれると考えられる。



鳥嶋昭信



県内の分布